

帯広・音更・池田

(北海道帯広市、
音更町、池田町)

注目ポイント！

- 「北の屋台」を核に観光客と市民で賑わう場を創出。
- 豊かな自然環境を背景にした市民手づくりによる観光振興。



**観光入込客数が約382万人(平成15年度)から約432万人(平成17年度)に！
外国人宿泊客数が約2万人(平成15年度)から約6万人(平成17年度)に！**



「食糧基地」十勝の田園風景

コラム

平成12年北の起業広場協同組合を設立後、専務理事に就任する。平成13年「北の屋台」のオープンに尽力し、「寒いから」、「法律の壁が厚いから」と、困難と思われた北海道での屋台村を数々のアイデアと工夫により帯広市に実現した。中心街に観光客と市民で賑わう場をつくりだし、地域活性化、まちづくりに大きく貢献している。



観光カリスマ
坂本 和昭氏

これまでの経緯

- | | |
|-------------|--|
| 平成13年(2001) | 「北の屋台」がオープンする。
帯広空港に台湾から初の国際チャーター便が乗り入れる。 |
| 平成15年(2003) | 十勝川温泉街「ハナックフェスティバル」がロングイベントに一新する。 |
| 平成16年(2004) | 美人の湯として知られる植物性(モール)の有機物を多く含む十勝川温泉が、北海道遺産に指定される。
温泉水で育てたヘイケボタルで「モール温泉夢ボタル」イベントを開催する。 |
| 平成17年(2005) | 年3回「北の屋台」で「十勝産海産物フェア」(シシャモ、ツブ、ホッキ)を開催する。
池田町ワイン城が大改修される。 |
| 平成18年(2006) | 第1回「帯広まちなか歩行者天国」が6月から毎日曜日、計12日間開催(9月まで)。
また期間中、JR帯広駅から歩行者天国会場まで、ばん馬の馬車が来場者を運ぶ社会実験を実施。 |

全国に注目される北の屋台

北の起業広場協同組合が興した『北の屋台』は、季節毎に地場産の旬な食材を用い、各店で独自料理の提供や生産者、農協との共同イベント開催など地産地消を発信し、観光客と地元客とのふれあいの場を創出。

主なイベントとして農家が直接野菜を売る「夕やけ市」や「十勝産海産物フェア」が人気。人口17万人の帯広市にわずか18店舗の屋台で、年間18万人が来客。



北の屋台

帯広まちなか歩行者天国



ばん馬の馬車

中心街に再び賑わいを取り戻そうと、実行委員会が官民挙げて取り組みを実施。路上で市民手づくりのオープンカフェや農業者による有機野菜の販売、YOSAKOIソーラン等、多彩なイベントを開催。

また来場者誘導策と観光資源としての有効性の検証のため、会場周辺でばん馬の馬車を運行する社会実験を実施。



歩行者天国

十勝川温泉「モール温泉夢ボタル」

夏の温泉街を花で彩る「ハナックフェスティバル」、十勝の新鮮野菜で秋の味覚を提供する「とかち大収穫祭」、夜の雪原を彩る光と音のファンタジー「彩凜詩」と、四季折々の自然と調和したイベントを観光協会が次々に開催し、年間約58万人の観光客が来訪。

中でも「モール温泉夢ボタル」は、世界的にも珍しいモール温泉水を使い、せせらぎの再生に取り組むので、毎年、多くの観光客を楽しませる観賞会を連日開催。



ボタル放流

池田町ワイン城(十勝ワイン)

池田町ブドウ・ブドウ酒研究所が「楽しく学ぶ」施設づくりを展開。ワイン熟成室への見学者通路の設置や特産品ショッピングエリアの拡充とともに、施設見学や試飲セミナーなどを盛り込んだ「体験プラン」を充実。帯広空港へのチャーター便乗り入れにより台湾からの観光客も増加。(平成16年度:約22万人→平成17年度:約33万人)



ガイドツアー



問い合わせ先

- 北の起業広場協同組合 Tel : 0155 - 23 - 8194 <http://www.kitanoyatai.com>
- 帯広まちなか歩行者天国実行委員会事務局 Tel : 0155 - 23 - 6546 <http://www.hokoten.net>
- 十勝川温泉観光協会 Tel : 0155 - 32 - 6633 <http://www.tokachigawa.net>
- 池田町ブドウ・ブドウ酒研究所 Tel : 015 - 572 - 2467 <http://www.tokachi-wine.com>